

(1)

平和と平和共存、反独占民主主義
平和・民主・労働運動統一のため
大衆的青年同盟建設のために

青年の旗

第49号

編集 労働青年同盟(仮称)結成準備会

發行 青 年 の 旗 社

振替 東京6-40103 大阪37542 名古屋4650

一部200円、定期購読 年間三千円（送料込み）



れたものの、東京の記念式典には、後援として総理府の他文部省も新たに加わり、中山總務長官、中川科学技術庁長官、藤尾労相の三閣僚が出席するとともに野党側も民社・新自クの幹部が出席し、公明党も党として初めて祝電を送るなど、政府の既成事実積み重ねによる「國家行事化」策動を、簡単に許してしまっている。

主張

反ソ民族主義・軍國主義化に「北方領土の日」と「建国記念日」

「北方領土の日」と「建国記念日」——二月初旬に相前後して設定された二つの記念日は、まさしく民族主義・国家意識「昂揚」の記念すべき（革新勢力にとつては背筋に寒気の走る）日々であつた。そして、それらは相つゞ改憲・軍事費増強発言や武器輸出・制服組の胎頭など一連の軍国主義化の策動と表裏一体のものとして位置づけられているのである。

記念集会に社共も参加

二月七日の「北方領土の日」には、全国各地で、超党派の「北方領土返還要求」の集会がもたれた。とりわけ、東京での全国集会には、総理府が主催者の一員として加わり、鈴木首相、両院議長など政府の

今予算国会は内外の反開かれている。とりわけの八一政府予算案の反動へと組織することが全民現在、国会では、竹田統幕議長発言、奥野法相発言を発端とした、「改憲」問題、武器輸出禁止法制定問題等が主要な対決場として登場している。しかし、これすらも独占サイドから計画的に提出され（国民的合意を得るために）たものであり、議会内をとり引きに終始している現状である。人民の生活防衛を要求する国会闘争は皆無に近い。こうした、社会党、共産

主勢力に要請されている。動攻勢、八一春闘がらみの中、増税元年といわれる戦後最後性をばくろし、人民を平和擁護をはじめとする反独占指導勢力の後退の中で自衛隊制服組が国会論議の中にしばしば登場するという極めて危険な事態が生じている。自衛隊制服組と軍需産業（軍拡キヤンペーン）を先導する自衛隊制服組は、武器を製造し輸出する、軍需産業資本の代弁者である。

この両者が前面に登場した事は、民主勢力の追求の成果というよりは、彼らが着々とその勢力を伸長させた事は、民主勢力の追求の結果といふべきである。

で極めて重要な情勢の下で、大の大増税、反ソ軍国主義護、生活防衛の一大闘争へたことを示すものである。「制服組発言」「武器輸は、いずれも氷山の一角ある。

きた。「防衛費GNP 1%以内」「専守防衛」「徵兵制は違憲」という政府見解にことごとく反論した竹田統幕議長が、「本音を露骨には言うな」という最も軽い「注意処分で退任にありつけたのも分かろう」というものだ。武器輸出に於いても然りである。「輸出」云々よりも「韓国」で合弁会社をつくり、兵器の大量生産を行なつているのが実情である。

「制服組」の「暴走」は「文民統制」の不徹底によるものであり、「文民統制」を堅持・強化する為、竹田議長を罷免せよ、と野党は

春闘共闘第一次日比谷野外音楽堂にて、国民春闘共闘会議・東京春闘

春闘共闘第一次決起集会開催

名

反ソキヤンペーンの不当性をばくろすることにより、「軍事費を削減せよ！」といふ言葉が国民的スローガンになるのである。更に、ソ連によるのである。そのことにより、軍需独占体くれてやりの「財政再建」がいかに反国民的、反動的なものであるかが明らかとなるのである。

竹田発言・武器密輸糾弾！

反ソ民族主義に抗し 軍事力強化を阻止しよう

して安全保障の問題を五五
ば、上限をもたぬ軍拡論
にならざるを得ない。
デタントを守れ！

定期購読 年間三千円（送料込み）
申し込み 「青年の旗」社

第開も軍對反ソ領土要求の闘を競いあつて、反ソ右翼議員の拍手かつさいをうけてまで二・七北方領土要求集会に参加する共

決に決してしまない
反ソキヤンペーンの不当性をばくろすることにより「軍事費を削減せよ！」といふ言葉が国民的スローガンになるのである。更に、がいかに反国民的、反動的なものであるかが明らかとなるのである。
平和と生活防衛闘争の結合した一大衆運動の展開強大かつ広範な統一戦線をもつて春闘を開い抜くこそが重要である。

三・八 国際婦人デー

既得権擁護・労基法改悪阻止・
差別撤廃条約批准の闘いを職場生産点から展開しよう！

昨年の婦人会議の成果

昨年七月に、コベンハーゲンにおいて開催された婦人会議は、七九年に採択された「婦人に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」署名式を行ない、五ヶ国が署名するという成果をあげた。

婦人労働者をめぐる情況

こうした世界の動向に対して、国内では一層、差別が拡大、婦人労働者に対する搾取が強化されている。今日、働く婦人は一三一〇万人（一九八〇年）と全労働者の三三・八%を占めている。中でも、パートタイムはその二割を占め、

はじめに

通産省の元官僚であった堺屋太一は、「油断！」以下の一連の小説によつて極めて露骨な反動思想をバラ撒く作家として、今日厳しく批判されなければならぬ。

堀屋太一の描く世界

堀屋の眼に映る社会とは

としている日本資本主義の末期の姿である。しかし堀屋は、この社会を何とか生き延びようとする独占ブルジョアジーの眼で、「憂鬱な時代」、「絶望の90年代」（「困塊の世代」）を見ている。

「公害、公害と国会も新聞も騒ぎ過ぎる」、「10%内外の物価上昇をさして気にしない」、「国家の安定」のために早く急に必要とされるのは、石炭であり、「幸せな日々」の続く社会である。そして真に日本を憂うるのは、「こんな幸せな世間とは無縁の日々を過ごして

止され、そのことが結果

元通産省エリート官僚の描く世界

堀屋太一の「近未来小説」批判

パート労働者の組織化に取り組む中、労基法改悪を許さず、「差別撤廃条約」批准に迫る闘いを、春闘に連

年々増加傾向にある。こうした不完全雇用労働者は日本の低賃金のしづめ石とされ、また、劣悪な労働条件のもとに放置されている。

また、男女賃金拡差は拡大し、労基法改悪攻撃の中で既得権はむしりとりようとしている。

更に、八一予算をみると、防衛予算七・六%増、福祉・文教・生活関係予算切り捨てと、労働者階級からの一層の搾取、大衆収奪が強化され、婦人の地位も増え劣悪な状態に置かれようとしている。

このようなかつて、大幅賃上げを軸とした平和差別撤廃条約批准へ！

高まる政治反動と軍国主

義強化の波の中、二月十一日「建国記念日」を迎えた。この日、反動作曲家

戦後、婦人参政権獲得の日、東京の伯父の店で一年ばかり手伝い（これは両親がわたしたちの風当たりを防ぐ闘い抜こう）。

三月七日、平和と「差別撤廃条約」批准をかかげて開催される「婦人問題を考える会」は「差別撤廃条約と婦人労働者の課題」をテーマに、国際婦人デー連帶講演集会を開催する。

国際婦人デー中央集会は三月七日、平和と「差別撤

廃条約」批准をかかげて開催される「婦人問題を考える会」は「差別撤廃条約と婦人労働者の課題」をテーマに、国際婦人デー連帶講演集会を開催する。

三月七日、平和と「差別撤

廃条約」